

# COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

## ジオマテック

6907 東証 JASDAQ

[企業情報はこちら >>>](#)

2019年7月12日(金)

執筆：客員アナリスト

**水野文也**

FISCO Ltd. Analyst **Fumiya Mizuno**



FISCO Ltd.

<http://www.fisco.co.jp>

## ■ 目次

■ 要約	01
■ 事業内容	02
■ 業績動向	05
1. 2019年3月期業績	05
2. 2020年3月期業績見通し	06
■ 今後の展望と課題	06
■ 特に期待される分野	08
■ 株主還元	09
■ 情報セキュリティ対策	09

## 要約

### 真空薄膜技術のプロフェッショナル

ジオマテック <6907> は、真空薄膜製品の製造販売などを行っている企業で、1953年に創業して以来、一貫して真空薄膜技術のプロフェッショナルとして歩んできた。取扱製品は、フラットパネルディスプレイ用基板（液晶ディスプレイ用基板、EL用基板、タッチパネル用基板）、光学機器用部品、その他真空薄膜製品などで、その技術はタッチパネルやディスプレイへの薄膜加工のみならず、幅広い分野で応用されている。

スマートフォン、タブレット端末、ゲーム、デジカメ、カーナビなどの普及は、同社が得意とする真空薄膜技術の活躍の場を広げ、液晶ディスプレイ、タッチパネルなどのカテゴリ製品が拡大、業績を押し上げることとなった。しかし、近年では、スマートフォンの需要が成熟化していることから、これらに依存したままでは成長を続けるのが難しい状況となっている。そのため、主力となっている FPD（フラットパネルディスプレイ）関連分野に加えて、業績をけん引する新たな柱となる製品を拡充することが必要となってきた。

そこで、同社は車載、半導体、インフラなどディスプレイ産業以外に幅広く新たな分野の製品育成に積極的に取り組んでいる。なかでも、車載分野については、反射防止膜＋防指紋機能膜、ハーフミラー、透明ヒーター、また半導体分野については、HRDP®\*向け再配線電極など、薄膜加工へのニーズが増加しており、今後の期待分野と言えそうだ。このほか、g.moth®、加飾膜、透明ヒーター、近接センサー、撥水・親水、円筒内部成膜など、従来のディスプレイ産業向けとは異なる新しい製品・技術が、様々なシーンで採用されるなど将来性が大きい製品が目白押し。これらの製品に注力し、顧客からの試作品に積極的対応し、新たな薄膜製品、技術を開発し飛躍を目指していく。

\* HRDP®とは、三井金属鉱業用製品名

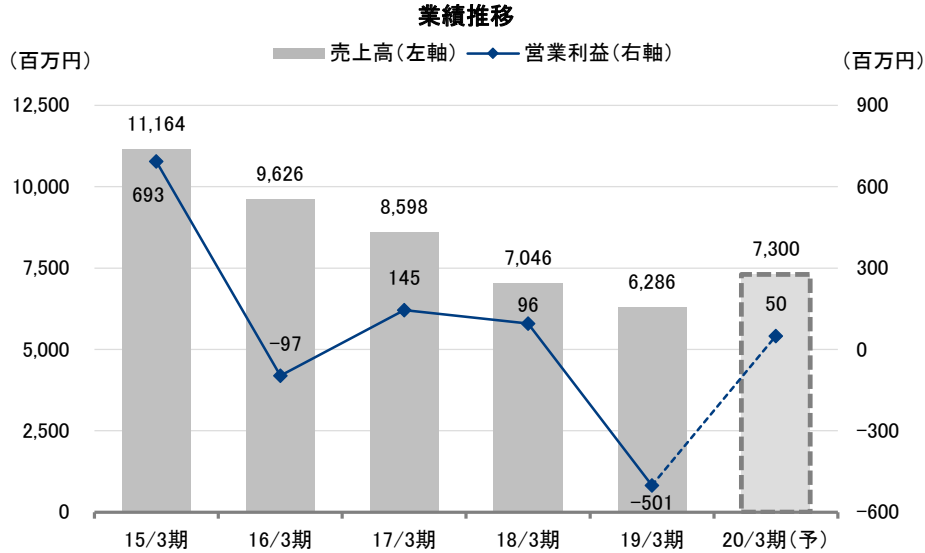
2019年5月15日に発表した2019年3月期連結決算は、売上高が6,286百万円（前期比10.8%減）、営業利益は501百万円の損失（前年実績は96百万円の利益）、経常利益は428百万円の損失（同98百万円の利益）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,020百万円の損失（同79百万円の利益）となった。中国のスマートフォン市場の低迷による受注減が影響している。現地法人について減損処理を実施した。ただ、後述する試作品が本格生産に移行した際には利益向上が見込めるようになる。

2020年3月期の予想は、売上高が前期比16.1%増の7,300百万円、営業利益は50百万円、経常利益は80百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は70百万円と黒字化する見通し。配当金については、2019年3月期に引き続き年間30円を見込んでいるなど、厳しいながらも、株主還元には前向きな姿勢を崩していない。

#### Key Points

- ・真空薄膜技術のプロフェッショナル
- ・2019年3月期は、売上高6,286百万円と業績予想修正値の水準での着地
- ・2020年3月期の配当は、2019年3月期に引き続き年間30円を見込み、株主還元には前向きな姿勢を崩さず

## 要約



出所：決算短信よりフィスコ作成

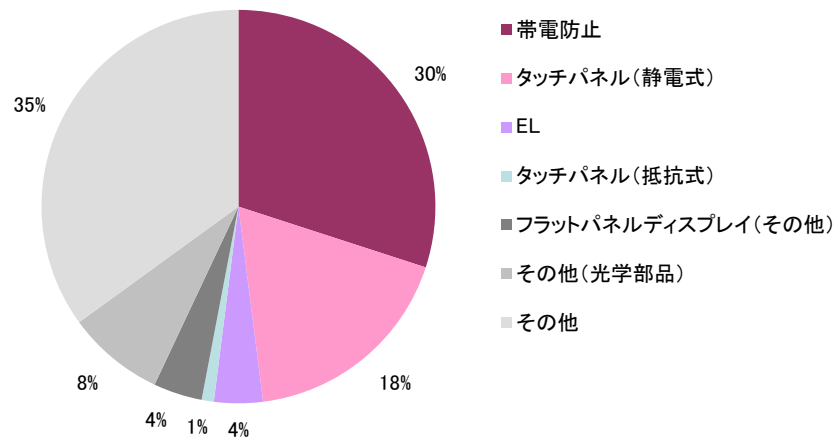
## ■ 事業内容

### 様々な薄膜加工製品を世に送り出し、発展を続ける

同社のビジネスは、1953年に創業して創業65年となるが、それ以来、一環して真空成膜技術にこだわり続け、様々な薄膜加工製品を世に送り出し、発展してきた。生産の形態は、受託加工が全体の97%とほとんどを占め、その内、ユーザーからの材料支給は70%。言わば、高品質な技術をユーザーに提供する格好となっている。“薄膜一本”の業態ということで、決算書においてはセグメントの項目を置いていない。現在、加工品目の構成比は、FPDが52%、光学・その他が48%となっている。

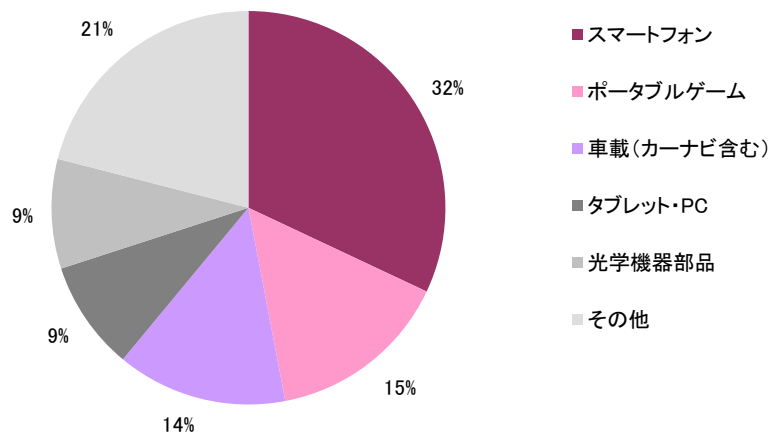
## 事業内容

## 品目別加工高構成比(2019年3月期)



出所：会社資料よりフィスコ作成

## 最終製品別加工高構成比(2019年3月期)

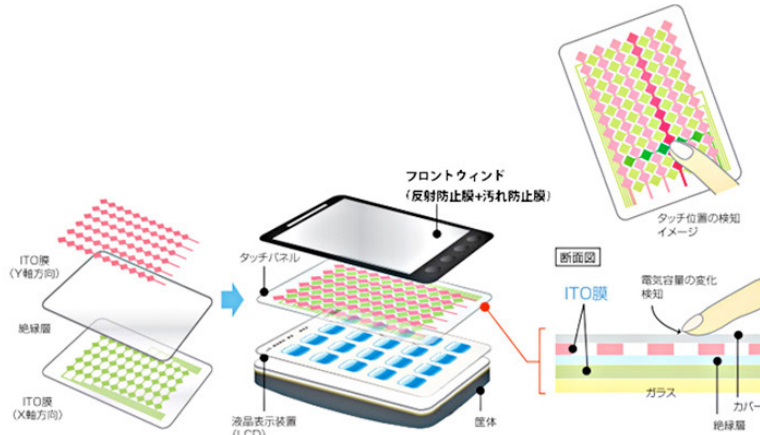


出所：会社資料よりフィスコ作成

提供している薄膜機能としては、透明電導膜、金属膜など電気を通すもの、金属反射膜、光学多層膜、反射防止膜、赤外線カット膜、遮光幕といった光をコントロールするもの、透明ヒーター、デフロスターなど発熱するもの、そのほか、加飾膜、撥水・親水膜、温度計測膜など多種多様だ。主力の液晶関連では、スマートフォン、タブレット端末、ゲーム、デジカメ、カーナビなど帯電防止膜、タッチパネル用導電膜など幅広く活用されている。また、他の分野においても、自動車を始め幅広い分野で同社の技術は欠かせない。

事業内容

投影型タッチパネル構造



出所：ホームページより掲載

スマートフォンなど液晶関連製品の急速な普及で、業績を飛躍させた会社であったが、最近では中国のスマートフォン市場の減速のあおりを受け、業績は低迷を余儀なくされ続けた。そこで、FPD 関連以外の分野にも注力している。課題として“脱スマホ依存”を掲げ、ビジネスモデルの変革に取り組む。具体的には、車載分野や産業分野の拡大を目指す。

例えば、多くの部品で構成される自動車は、カーナビゲーション以外にも、センターインフォメーションディスプレイやメーターパネル、スマートミラー、センシングカメラ、内外装の装飾——等々、同社の技術が応用できるパーツが多いことから、将来的にも期待が大きくなっている。さらに、半導体、インフラ、建材、医療など今後も薄膜の応用できる分野を広げていく方針だ。

機能膜つきパーツ

車載

**【GEOMATEC Coating Technology for Automobile Parts】**

- Coating for Smart Rearview Mirrors
- Anti-Reflective Coating for Windows
- IR-Cut Coating for Sunroofs
- Anti-Fingerprint Coating for Touchscreens
- Anti-Fogging and Anti-Freezing Coating
- Decorative Coating for Emblems

出所：決算説明会資料より掲載

事業内容

これまでは液晶関連が売上構成において群を抜く存在だったが、液晶関連製品がなくなることはないながらも、成熟したため大きな伸びしろは期待できない。そのため、新たな戦略分野の育成に努めている。

また、従来は川中のコーティング加工がビジネスの中心だったが、川上の基材から川下の加工・組み立てまで領域を広げる、「全工程でソリューション提案に取り組む」ビジネスモデルへの変革にも取り組んでいる。

戦略製品としては、後述する半導体分野の製品も控えており、そう遠くない日に巻き返しが期待できそうだ。

## ■ 業績動向

**2019年3月期は、中国のスマートフォン市場低迷による受注減が影響。  
 2020年3月期は、試作品が本格生産入りした場合に利益の回復が見込める**

### 1. 2019年3月期業績

2019年3月期連結決算は、売上高が6,286百万円（前年比10.8%減）、営業利益は501百万円の損失（前期は96百万円の利益）、経常利益は428百万円の損失（同98百万円の利益）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,020百万円の損失（同79百万円の利益）となった。

製品別で、主力である帯電防止膜は米国のスマートフォン向けの受注が好調で強含みとなったほか、AR/AF膜が車載向け、カラーパネル向けに大幅に拡大。保護膜もLED照明、プリンター部品向けなど好調だった。

半面、タッチパネル向け導電膜・電極膜が、中国のスマートフォン市場の冷え込みから前年比でほぼ半減となったほか、加飾膜も同様の理由から激減した。

他方、試作品は引き合いが活発化しており、これらが本格生産入りした場合には、利益の回復が見込めるようになる。

他方、中国市場の不振を背景に、連結子会社の無錫吉奥馬科技有限公司で500百万円、ジオマテック金成テクノセンターで81百万円、計581百万円の減損処理を実施。痛みを伴い、大幅な損失を計上したものの、減損実施に伴い、今後は減価償却費等の軽減につながってくる。

このようにフローでは我慢する状態にあると言えるが、キャッシュは潤沢であるなど財務面が良好な状態には変わりが無い。期末の自己資本比率は65.2%と、2018年3月期末の68.2%から若干低下したが、高水準を保っている。

業績動向

**業績推移**

(単位：百万円)

	18/3 期		19/3 期		20/3 期	
	実績	前期比	実績	前期比	計画	前期比
売上高	7,046	-18.1%	6,286	-10.8%	7,300	16.1%
営業利益	96	-33.8%	-501	-	50	-
経常利益	98	-56.0%	-428	-	80	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	79	-	-1,020	-	70	-
EPS (円)	10.05		-129.03		8.85	

出所：決算短信よりフィスコ作成

## 2. 2020年3月期業績見通し

2020年3月期の予想は、売上高が前期比16.1%増の7,300百万円、営業利益は50百万円、経常利益は80百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は70百万円と黒字化する見通し。配当金については、2019年3月期に引き続き年間30円を見込んでいるなど、厳しいながらも、株主還元には前向きな姿勢を崩していない。

売上高から材料費や外注加工費を差し引いた同社が重視する経営指標の加工高は5,800百万円(前年比8.0%増)を見込む。

製品別では、とりわけ、車載向け、液晶向けのカバーパネルは引き合いが活発化していることから、増加を見込んでいる。車載向けは前年に66%の伸びを示したが、新しい期についても期待が大きい。

カギを握りそうなのは、中国の動向となる。スマートフォンの市場冷え込みに加え、米中貿易摩擦の激化もあり、依然として不透明感が強い。しかしながら、今年の中国は建国70周年に当たり、経済面においても「負けられない年」となるため、内需拡大策が見込める状況。中国向けは好転する可能性もある。

## ■ 今後の展望と課題

### ディスプレイを堅持しつつ、 車載向けと新たな製品・分野へのマーケティングと技術開発力の強化に 取り組む

同社の現時点における収益基盤は、FPDに関連するビジネスが全体の半数以上を占めており、ディスプレイ産業への依存度が高い。そのため、同製品の動向に収益が左右されやすく、中長期的な視点で見ると、安定した収益基盤を構築する必要がある。



今後の展望と課題

創業来、大きな産業サイクルの影響を受けてきた。逆風が吹くたびに潤沢なキャッシュフローで乗り切っていたが、今後は風に頼らず自身で能動的に厳しい環境に対処する、言わば、攻めの経営に転じる。それは、これまでほとんど行っていなかった海外展示会への出展など、マーケティング活動を強化していることからもうかがえる。

現在、同社を取り巻く収益環境は、再三述べてきたように、中国のスマートフォン市場が冷え込んでいる上、全体的にひと頃に比べて成熟化、さらに低価格化が進んでおり、先行きについて楽観視できない。こうした点を踏まえ、ディスプレイを堅持しつつ、車載向けと新たな製品・分野への販売促進と技術開発力の強化に取り組む。

既存事業については、汎用性の高い自動化、半自動化による生産性の向上と低コスト化などに努め、同時に、事業ポートフォリオを高付加価値製品群の比重を高め、薄膜技術の応用を液晶産業一極から幅広い分野に広げていく。益率が高い高付加価値製品や試作品に注力し、同時に取引先を拡大させる構えだ。

具体的には、塗装では出せない鮮やかな色が特徴となる加飾膜は、車載、建材向けに加え、腕時計などにも採用。透明で電気を流す透明ヒーターは、車載、鉄道などのほか高速道路の監視カメラなどに提供、NEXCO 東日本（東日本高速道路（株））北海道支社など寒冷地の高速道路で安全を守っている。

活躍の場を広げる透明ヒーター

●電車窓用ヒーター

運転席の窓への着雪を防止し視界を確保するため、透明ヒーターが取り付けられています。



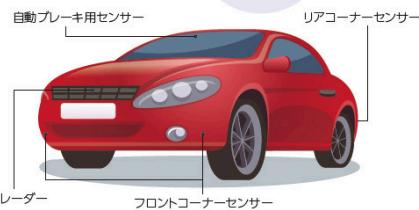
●監視カメラ用ドーム型ヒーター

レンズの前面カバーに少ない電力で曲面を均一に暖められる透明ヒーターが取り付けられています。



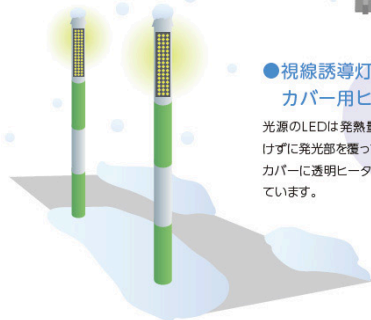
●車載センサー用ヒーター

雪・水滴の付着を防止しセンサーを安定的に動作させるため、透明ヒーターが取り付けられています。



●視線誘導灯カバー用ヒーター

光源のLEDは発熱量が少なく雪が溶けずに発光部を覆ってしまうため、光源カバーに透明ヒーターが取り付けられています。



出所：会社資料より掲載

そのほか、透明電導膜、金属膜、金属反射膜、光学多層膜、反射防止膜、赤外線カット膜、遮光幕、デフロスター、加飾膜、撥水・親水膜、温度計測膜など多種多様な技術を幅広い産業分野で応用を進める。

モスアイ構造と呼ばれる、蛾の複眼の仕組みを模倣したナノサイズの突起形状をフィルムに形成、光の反射を抑え、映り込みを少なくできる g.moth® フィルムなど、高度な技術で誕生した製品が注目されているものの、今後も「試作から量産まで」をモットーに、関連する市場や製品の技術・知識の融合により、新しい技術を構築する考えだ。

今後の展望と課題

### g.moth® の効果

(左：g.moth® フィルムを貼っていないガラス、右：g.moth® フィルムを貼っているガラス)



出所：会社提供資料より掲載

## ■ 特に期待される分野

### 三井金属と共同で FO-PLP 向けの微細回路形成用材料「HRDP®」で使用される 再配線電極を開発

既に、報道等で周知されているが、三井金属 <5706> と共同で半導体の次世代パッケージ技術の一種「ファンアウト・パネルレベルパッケージ」(FO-PLP) 向けの微細回路形成用材料「HRDP®」で使用される再配線電極を開発。この将来性が注目されている。

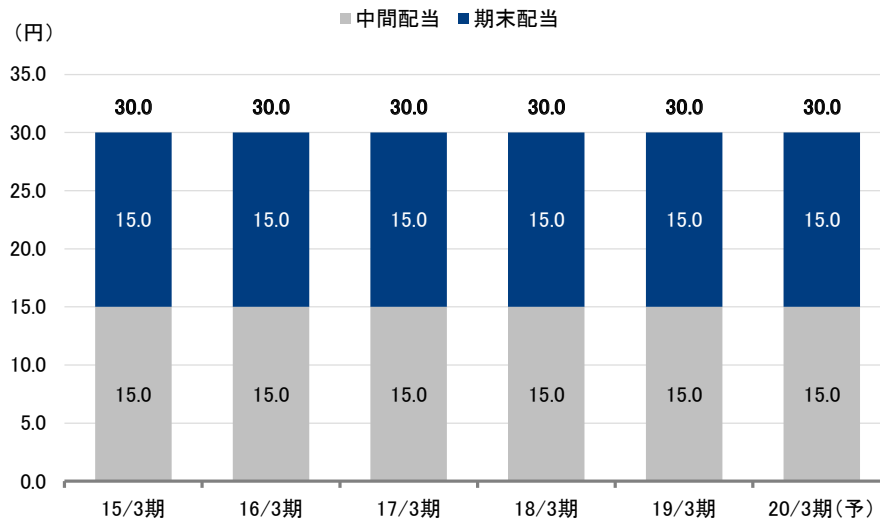
現時点では、実用範囲の拡大を模索している段階だが、有償サンプルを供給、収益となっている状況だ。これが本格的に立ち上がれば、収益構造が一変する可能性もあると言えそうだ。

## 株主還元

### 2020年3月期の配当は引き続き年間30円を見込む。 株主還元には前向きな姿勢を崩さず

2019年3月期の配当は、現役決算となりながらも、年間30円の配当を継続。2020年3月期も年30円配を見込む。今後も安定的に配当を出すことで株主に応えていく考えを示している。

1株当たり配当金の推移



出所：決算短信よりフィスコ作成

## 情報セキュリティ対策

顧客と NDA（秘密保持契約）を結んでいるため、厳格に情報を管理している。とりわけ、情報にアクセスする権限について、社内で制限を徹底。関係者以外では、例え役員であっても権限がなければアクセスできないなど、情報漏れがないように細心の注意を払っている。

#### 免責事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

#### ■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-11-9

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（情報配信部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp